

錦帯橋がつなぐ町並み 自然と向き合い、 営みと共に育つまち

10月11日、「錦川下流域における錦帯橋と岩国城下町の文化的景観」が国の重要文化的景観に選定されました。

関錦帯橋課 ☎(29) 5107

■ 文化的景観とは

地域における人々の生活やなりわい、その地域の風土により形成された景観地を言います。市ではその価値を正しく評価し、地域で守り、次世代へと継承していくため、平成27年度から国の重要文化的景観の選定を目指し、取り組みを進めてきました。

■ 重要文化的景観として評価されたポイント

岩国城下町は、錦川が大きく蛇行して山を取り囲む位置に岩国城が築かれたことに始まり、藩主居館や重臣の屋敷などが置かれた城山のふもと側(横山地区)と、家臣屋敷や町人地が置かれた岩国山のふもと側(岩国地区)が、錦川によって大きく隔てられていることが特徴です。兩岸の城下町をつなぐ錦帯橋は、江戸時代後期から今日まで観光地としてのにぎわいをもたらし、浮世絵にも描かれた風景が受け継がれています。また城下町では錦川や内水の氾濫に対する備えを護岸や水路、建造物などに見ることができ、川と密接に関わる暮らしが引き継がれています。岩国城下町の文化的景観は、川の特性を踏まえた城下町づくりから特徴ある景観が生まれ、それが名所となつてにぎわいをもたらし経済活動や文化活動の活力を支えるという、自然と都市と産業の関連性を示し、独特であることが評価されました。



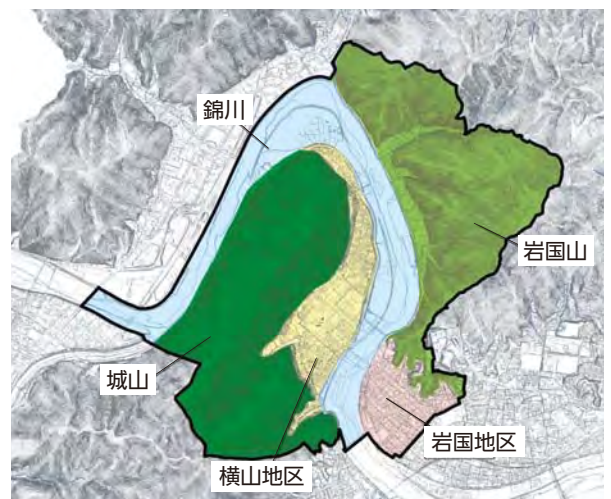
5つの景観単位が重なり合い、一体性を成すこの風景は、都市の発展の歴史、人の手が作り上げてきた自然と都市の関係性を伝えています。
※詳しくは市ホームページに掲載しています



重要文化的景観選定区域（右地図黒枠内）

■ 構成する景観単位

城山、岩国山、錦川、横山地区（吉香公園、旭町など）、岩国地区（大明小路、岩国七町、橋本町、土手町など）



文化的景観の特徴に注目



川と向き合う都市の仕掛けと暮らし

石垣による屋敷地のかさ上げや堀や水路の整備といった浸水への備え、土手を取り込んだ懸作りと呼ばれる建物など、川と向き合う特徴的な景観が生まれました。



錦帯橋がつなぐ岩国城下町

兩岸の横山地区、岩国地区が錦帯橋によって一体的につながり、岩国城下町としての風情と活気、それぞれの特性を受け継ぎながら今日に至っています。



描かれる風景と物見の生業

錦帯橋と岩国城下町の風景は絵図に描かれるなど評判となり、人々の往来が生まれ、それが城下町に土産物屋や旅館などの観光地としての産業を育みました。

＼地域の人に選定された喜びの声を聞きました／

歴史と共に育まれてきた文化的景観の選定は、地域にとっても岩国市にとっても1歩前進と言えると思います。

横山地域では、この景観を守るために月に1回の清掃活動や土手の草刈りを行う、地域住民で意見交換して要望活動を行うなど、地域をより良くするためにどうしたらいいのかを考え住民が一体となって活動を行っています。竹林の保全活動で出た竹を利用して地元中学校と一

緒に門松づくりをするなど、次世代につなぐ活動にも積極的に取り組んでいます。今後も地域や行政と問題を共有し、より良い地域にするために必要な活動を続けていきたいと思っています。



横山地区自治会連合会
福田博一会長

今回の選定は、錦帯橋の世界文化遺産登録に向けたステップだと思っています。商店が並び、軒を連ねるこの地区の景観を次の世代につなげるためには、これからも人が住み、守り育てる必要があります。地域に残るさまざまなものを継承していくために何が必要かを地域と行政が一緒になって考えていかなければならないと思っています。錦帯橋をはじめ、見応えのある文化遺産や景観、建築物が多くあるこの地域に人が集まり、伝統を守り育て、次世代につないでいく仕組みづくりをすることでここにしかない魅力をもっともっと発信できるようにしたいと思っています。



岩国地区自治会連合会
藤川克己会長



文化的景観を保存活用していくために

岩国城下町の文化的景観は地域の風土に根ざして営まれてきた人々の生活となりわいによって長い年月をかけて作り出されてきたものです。この景観を次の世代に引き継ぐためにはその価値を共有し、住民と行政が一緒になって必要な施策を展開していくことが大切です。歴史的な町並みの整備や活用、伝統文化の継承などを通じて、地域のにぎわい創出につながるまちづくりを進めていきます。